

2013年6月入職

いわいちかこ
岩井千賀子

素直になることで、自分の世界が広がる

相手の立場になって物事を考える

もっと早くケアワーカーになればよかった。この仕事を始めてすぐに私はそう思いました。前職は看護助手の仕事に関わっていたのですが、業務領域が制限されており、患者さまや利用者さまとのやり取りが少ないことに物足りなさを感じていました。

転職してから、やりがいは格段に増えました。一番面白みを感じるのは、利用者さまに対して通り一遍で接するのではなく、一人ひとりに合わせて触れ合い方を変えられることです。利用者さまは、言葉を発せなかったり体を動かさなかったりと、それぞれに置かれている状況が違います。同じ人でも、日によって気分が異なる時もあります。その分、相手の立場になって物事を考えることが求められますが、浅い関係ではなく、利用者さまと深く触れ合いたかった私にとってはこれ以上ない環境です。

苦手だった移乗動作を克服



私は体のサイズが小さく、利用者さまを車椅子からベッドに寝かせる移乗動作が得意ではありません。ある男性の利用者さまを担当した時、その方は「できるの？」という感じで、実際に上手いきませんでした。そこでショックを受け、以後は移乗動作を避けていたのですが、それではいつまで経っても上手くならないと思い、チャレンジすることにしました。「練習するので、直すところがあれば教えてください」というように、利用者さまからの声を真摯

に受け止めるようにしたのです。その成果が実ったのか、「上手になったね」と言われた時は最高に嬉しかったです。

この出来事にも表れているように、以前に比べて意地を張らなくなったように思います。思いやりエキスパートの打診を受けた時も、最初は「どうして私なのか」と意外に思ったのですが、選ばれたことを素直に喜ぶことにしました。必要以上に謙虚になるのではなく、しっかりと受け止めて自信に繋がった方が自分のためになると思ったからです。大人になると、周りから認めてもらえる機会は年々減っていくので、思いやりエキスパートの制度があることは環境として恵まれていると感じます。これからも素直な気持ちで仕事に向き合いながら、自分の世界を広げていきたいです。



太陽のような
笑顔で
かんはります
岩井千賀子